

## 令和2年度第2回白井市市民活動推進委員会（審査会）会議録

1. 開催日時 令和2年8月5日（水）午後1時～午後5時
2. 開催場所 白井市役所 本庁舎4階 大委員会室
3. 出席者 関口宏聡委員、清水洋行委員、湯浅章吾委員、  
大田茂子委員、黒木弘司委員、篠崎慶子委員（名簿順）
4. 欠席者 なし
5. 事務局 松岡課長、中原主査補、高橋主事補、石垣センター長
6. 傍聴者 なし
7. 議 事
  - (1) 補助金審査の流れ〔非公開〕（資料1、2）
  - (2) プレゼンテーション〔※非公開〕（資料1、2）※感染防止対策のため
  - (3) 補助金審査〔非公開〕

### 8. 会議概要

#### (1) 補助金審査の流れ〔非公開〕

(理由) 白井市情報公開条例第9条第1項第5号に該当するため。

#### (2) プレゼンテーション〔※非公開〕（資料1、2）

※感染防止対策のための非公開であったため、議事録は公開とする。

「事務局」 一番最初の団体は、ハートの会さんです。

事業名は、不登校の子を持つ親への支援事業。事業概要は、不登校の子を持つ親たちが安心して本音で語れる居場所を提供し、悩みを共有しながら親も子も元気を取り戻せるように支援していく。また不登校に対する理解と、お互いを認め合える孤立しない環境を整えていくための情報発信をしていくとなっております。

本日の出席は、〇〇さん、〇〇さん、〇〇さんの3名です。

「発表者」 こんにちは。私たちは、ハートの会です。よろしくお願いいたします。

私たちの活動を大きくまとめると、三つかなというふうに思っております。

一つは、この親の、不登校の子供を持つ親。私もそうだったのですが、そうすると、もう本当に子供の将来がないのではないかというくらい不安になります。そして、ずっと私ももんもんと悩みました。ただ、こういう親の会に参加したときに、1人じゃないんだという、そこから安心感を持つことができ、今、娘は30歳を超えて、自立して歩んでおります。

そういう体験から、ハートの会を12年前に、ヤングハートの指導員をしているときに立ち上げました。そして、不登校で悩んでいるお母さんたちとともに、一緒にありのままを語り、涙し、笑い、そういう時間を重ねてまいりました。一番は、悩んでいるのは1人じ

やないですよということをお伝えしたいということです。

毎月1回、定例会を行う中で、ありのままを語り合い、そこで不安を共有して、分かる、分かると、そうだよねという思いを共有して、そして、安心感を少しずつ持っていただいて、支え合うという場になっております。

そして、これは私どもだけではとても難しいことだったので、講師の先生や、御理解をいただく先生方に来ていただいて、学習会というのを行っておりました。そこで、不登校は今、全国で、隠れ不登校も含めて44万人。だから、誰にでも、どこのお宅にも起こり得ることだよというようなことを通してお話をいただき、最後は信じて、子供は信じて待ちましようという、そこに気持ちを少しずつ向けることができるようになっております。

そのときに、今まではボランティアで本当に申し訳なく、交通費も差し上げられずいきましたが、補助金を頂けるようになりまして、そういうところに補助金を使っていきたいというふうに思っています。

〔発表者〕 子供のほうなのですけれども、南山ベースと……。

〔議長〕 マイクを使っていただいていいですか。

〔発表者〕 はい。南山ベースというところがあります。ハートの会の住所はここなのです。私の父の家なのですけれども、役員会等に使っています。

この場所なのですけれども、特に、私たちの教え子なのですけれども、不登校を経験した子供たちがのんびりと、それぞれに過ごしているようなところです。2月までは、月1回開けていました。ここずっとお休みなのですけれども。親以外の大人と話す機会があり、社会人になった先輩たちとの交流も生まれます。やはり、ここでも私たちは自立を願っています。

ここに集う子供たちが自分のことを話すという、そういう場所を設けてもいきたいなということで、そこでも資金が必要だなということで、ここに来ております。

〔発表者〕 そして、親子ともに少しずつ元気を取り戻して社会に戻っていきますけれども、やはり社会の不登校に対する理解がないと、同じことを繰り返してしまうということを体験しました。

それで、発信するというのを昨年度から行っています。

一つは、イベント。例えば去年は、自殺が増える2学期の始まる前に、悠々ホルンさんをお呼びしてイベントをしましたし、それから、広報や地域新聞等、定例会、イベントを知らせております。そして、パンフレットを作成しまして、公民館などに置き、どなたでも不登校のお母さんが目にできるようにしています。そして、私たちは多様性を認め合える社会、違いを受け入れることができると自分の世界が広がるよと、子供、大人にも伝えていきたいなと思っています。

この不登校のイベントをしたときの感想がございますので、ちょっとお聞きいただきます。

「発表者」 ハートの会は、とても温かいと感じました。私自身も、娘2人の不登校を乗り越えた経験がありますが、本日は、御近所の御夫人と参加しました。40代の娘さんの引きこもりで悩んでいらっしゃるの、解決へのヒントになったと思います。以上です。

【鈴の音】（プレゼン終了の合図）

「議長」 どうもありがとうございました。時間ぴったりですばらしかったです。ありがとうございます。

そうしましたら、この後、各委員から質問をさせていただきますので、基本的に一問一答で、お互い質問して、お答えいただくという形で進めさせていただきますので、御回答のほうをよろしくお願いいたします。

「発表者」 お願いいたします。

「議長」 ありがとうございます。

そしたら、委員、御質問ある方、挙手をお願いします。いかがですか。

「委員」 よろしいですか。

「議長」 では、〇〇さん。

「委員」 〇〇と申します。プレゼンありがとうございました。

「発表者」 ありがとうございます。

「委員」 とても重要な活動だと思います。

教えていただきたいのが、今回、学習会と交流会というものがあって、これは多分、定例会とは違う役割を期待されているのだと思うのですけれども、それが参加人数等だと、定例会とあまり変わらなかつたりもして、この狙いというのは、外の人を結構巻き込んで、先ほど、発信という言葉があつたのですけれども、外の人を巻き込むという狙いなのかなともちょっと思つたりもしたのですけれども、この学習会と定例会の狙いというのを教えていただけたらと思います。

「発表者」 ありがとうございます。

学習会というのは、不登校の子を持つ親御さんを対象にしています。目的は、考え方や動き方が分からず戸惑っているお母さんたちに、そういうものを知っていただく。つまり、心の整理に役立つということを目指しています。

それから、定例会は、不登校の子を持つお母さんたちが、1か月に1度集えることで、子供の変化に気づいたり、それから、こういう先輩のお母さんたちも、かつて不登校を経験したお母さんたちも集っていますので、そういうことかと知つたりすることです。

それと、交流会というのがございましたが、これは、後になって設けたものです。親の会に、かつて不登校を体験して引きこもつたりしていた子供で、学校に戻つたり、社会に戻つたりした子が、その親の前で体験を話してくれるという場です。これは、親が子供の気持ちを知るといふ貴重な時間になっていますし、子供の立場からいふと、心の整理に役立つ、自分が過去を整理する時間としてとてもいいものだというものを私たち、今、学ば

せてもらっています。以上です。

「委員」 ありがとうございます。

「議長」 ありがとうございます。

〇〇さん。

「委員」 〇〇でございます。

お尋ねしたいのですが、今、発表の中では、学校ですとか、教育委員会の関わりについては、特に発言なかったのですが、学校との話合いですとか、教育委員会への申出ですとか、そういった活動はなさっているのでしょうか。

「発表者」 今のところ、私どもも指導員を辞めましたので、今のところ行っておりませんが、こういったものがある場合、ここも教育委員会が協賛をしておりますので、私どもは特に親御さんに元気になっていただくというところに、今までやっていたので、密に連絡をとすることは、今のところありません。

「発表者」 リーフレットを作って皆さんに届けるときに、なかなか学校のことを言うこともできませんので、そこら辺は教育委員会のほうにお願いして、教育相談がございますので、そこで拾ってもらおうとか、知ってもらおうというようなことはお願いしております。なので、特に何かをするということではないのですけれども、お願いにはよく上がっております。知っている方もやはりいらっしゃるので、協力していただいています。

「委員」 ありがとうございます。

「議長」 ありがとうございます。

ほかの方、いかがですか。〇〇さん、どうぞ。

「委員」 〇〇といたします。

代表で、〇〇さんにお伺いしたいのですけれども、〇〇さんは、この活動というのをなぜ行われているのかというところで、社会的な意味とか、貢献とかではなくて、〇〇さんにとってのこの活動の価値というのは何なのかというのを教えてほしいのですけれども。

「発表者」 最初は、私自身が教師でありながら、我が子の不登校にきちっと向かい合えなかった、世間体を気にしたり、常識に娘をはめこもうとしたりして、非常に自分が苦しい思いをしました。

それから15年がたっているのですけれども、その中で、娘から教えられた、お母さんはどういう価値観で生きているのかというところに立ち戻りやってきたのですけれども、それをおかげさまで整理をしながら、ヤングハートで仕事をさせていただき、だから、私自身を取り戻すための仕事でもありましたが、そこから社会に向けて発信することの重要性を今すごく感じております。

「議長」 よろしいですかね。ありがとうございます。

ほかの方、いかがですか。

「委員」 よろしいですか。

「議長」 どうぞ、〇〇さん。

「委員」 先ほどの質問の続きというか、学習会と交流会の参加者と、定例会とは同じなのでしょうか。それとも、もっと広がりを持たせるような意味合いというのがあるのでしょうか。

「発表者」 定例会のほうは、日にちを流すぐらいで、来たい人が来る、必要な人が来るというところなので、人数的には少ないですね。だけれども、学習会等々については、中身をお知らせして、こんなことがありますということで、そのときだけ参加する方もいますので、人数は増えます。

交流会に関しましては、体験した子供たちも呼びますので、これは不登校の子を持つ親御さんだけでなく、教育現場でいろいろな支援をしている方たちも参加して一緒に話を聞いたりしていますので、ここ、人数はやっぱり増えます。以上です。

「委員」 分かりました。広がりがあるということが分かりました。ありがとうございます。

「議長」 ありがとうございます。

どうぞ、補足ありますか。大丈夫ですか。

時間はどうでしょう。もうお一方。

「事務局」 あと5秒です。

「議長」 あと5秒。では、お時間も来たということで。

【鈴の音】（質疑終了の合図）

「議長」 これにて、ハートの会さんは終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

「発表者」 ありがとうございました。

「議長」 お疲れさまでした。

「事務局」 2番目の団体は、しろいワクワクひろばの発表になります。

それでは、事前に説明をします。

事業名は、多世代交流型子ども農園・子ども食堂事業です。

事業概要については、地域の畑を活用して野菜や芋などの栽培、収穫作業、収穫物を利用した食品の配達、食事会、花植え作業等を通じて、地域の子供から高齢者までの交流や親睦を深め、地域福祉の増進（若い世代の子育て応援や、高齢者の引きこもり予防など）を図るということです。

本日の出席者は、〇〇さんと、〇〇さんになります。

「発表者」 しろいワクワクひろば代表〇〇と申します。よろしくお願いいたします。

「発表者」 事務局長の〇〇と申します。よろしくお願いいたします。

では、着座にて説明させていただきます。

多世代交流型子ども農園・子ども食堂事業について、御説明させていただきます。

初めに、私たちの活動地域ですが、白井第一小学校区内を中心としており、子ども農園については、白井保育園に近い場所にある畑で行っています。今年度は、白井中学校の近くにあります障害者施設第2ぼけっとさんの畑も利用させていただいています。

子ども食堂については、昨年度は畑から徒歩5分ほどの場所にある、ひだまり館という市の施設とコミュニティセンターをお借りして行いましたが、今年度は感染症拡大の影響によりまして、市の調理施設をお借りできないので、子ども食堂の代わりに、参加者へ社会福祉協議会から寄附していただいたお米などの食材や、お菓子の配付を行っています。

活動内容は、月1回、土日または祝日の午前11時頃から正午頃まで、子ども農園で苗植えや収穫作業を行い、その後、収穫したお芋などと一緒に、お土産として食材やお菓子を配付しています。子ども農園、子ども食堂という名称で事業を実施していますが、対象は市内にお住まいのお子さんから高齢者の方まで、どなたでも御参加いただけるようになっています。

昨年度は、ほぼ月に1回活動を行い、4月、5月には、里芋やサツマイモの苗植え、7月にはジャガイモ掘り、8月、9月には、ばらっぱまんじゅうやコロッケ作り、11月にはサツマイモ掘り、12月にはカップケーキ作り、今年の2月にはお汁粉作り。そして、3月にはジャガイモ植えを行いました。今年3月のジャガイモ植え替えは、各回とも子ども食堂も行いました。

昨年度の活動状況について撮影したものがございますので、御覧ください。

こちらは、昨年11月のサツマイモ掘りと、子ども食堂の場面です。こちらは、昨年9月のコロッケ作りの場面です。7月に畑で収穫したジャガイモを利用して、子供たちはハート形や星形など、それぞれ思い思いの形のコロッケを作っていました。こちらは、昨年11月のサツマイモ掘りのときに、市の健康課の保健師さんの指導の下、参加者の皆さんで、なし坊体操をしているところです。

このような活動を始めたきっかけは、少子高齢化や核家族化などによる地域の様々な課題があると感じたからです。白井第一小学校区は在来地区ということで、3世代の同居世帯も少なくありませんが、一方で、外国籍の方も含めた若い子育て世帯や、独り親家庭の方たちが、近くに親戚や知人がいなくて地域から孤立しがちになり、育児の負担から虐待に至ってしまうような場合もあります。

また、独り暮らしの高齢者や、高齢者御夫婦のみの世帯も増えてきていて、高齢者の方は、年ごとに心身の機能低下とともに家に閉じこもりがちとなり、孤独死や老老介護などの問題が起こってくる可能性があります。私たちは、子ども農園や子ども食堂を通じて、地域で生活する様々な年代の人たちがお互いに知り合い、交流を深めて、そのような問題を少しでも減らしていければと考えています。

私たちの事業は、そのための関わりのきっかけづくりであり、定期的で継続的な活動を通じた交流により、子供たちや若者の健やかな育ちを見守り、若い子育て世代を応援し、また、高齢者の閉じこもり予防を図っていきたくと思っています。地域の様々な人との関わりを通じて、子供たちには自信や意欲を、若いパパ、ママには、一人で頑張り過ぎないよう、子育ての孤立防止を。高齢者の方には、子供たちや若者との触れ合いで元気や生きがい、そして活動している会員のママたちは、若さと健康を保っていけるよう、事業を継続して実施していきたくと思っています。

こちらは、今年9月から来年3月までの事業予定で、毎月1回の子ども農園、子ども食堂を実施していくこととしています。今年度は、野菜やお芋などの農作業のほかに、花植え作業を予定しています。

会員の構成と協力体制についてですが、現在、会員は8名で、高校生や大学生、社会人の子供を持つママさんと、その友人で組織しています。協力体制としましては、畑を地域の方や福祉の施設の方から無料でお借りしたり、食材の一部を市の社会福祉協議会さんから御寄附を頂いたりしています。ほかにも、農業指導のボランティアさんや、地区社協の推進員さん、自治会さんなどの御協力により事業を行っています。

最後になりますが、私たちの事業は、白井市が目指している将来像「ときめきとみどりあふれる快活都市」へ。

【鈴の音】（プレゼン終了の合図）

「発表者」 を実現するための三つのプロジェクト、若い。

「議長」 お時間になってしまったので。もし、委員から質問があれば、それで触れていただいて構いませんので。

「発表者」 はい。

「議長」 すみません。ありがとうございます。

そうしましたら、残りの時間を質疑でさせていただきますので、委員からの御質問、一問一答形式でいきたくと思いますので、簡潔にお答えいただければと思います。

そうしましたら、御質問ある委員、挙手をお願いします。〇〇さん、どうぞ。

「委員」 〇〇と申します。よろしくをお願いします。

参加者のほうで、お子さんから高齢者まで、1人から15人の参加者があるというふうにお伺いしたのですが、高齢者さんは、参加された後、ボランティアのほうに参加していくみたいな流れはあるのでしょうか。

「発表者」 地域の方で御高齢の方。地域のお子さんと一緒に御参加していただいているので、その後のボランティアという形では、特に継続して活動はされていないのですけれども、毎回、地域のお子さんと一緒に、地域のお年寄りの方が御参加して下さって、活動を楽しみにして下さっているところがあります。

あと、農業ボランティアさんは御高齢の方が主なのですが、草取りや畑づくりなどの御

協力をいただいております、地域の参加者のお子さんとの触れ合いを大変楽しみにしていただいているところです。

「議長」 よろしいですかね。ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。では、〇〇さん、どうぞ。

「委員」 〇〇といます。よろしくお願いします。

事前に質問させていただいた中で、独り暮らしとか高齢者とか、外国人などに合わせた告知方法がありますかというのに対して、属性などに配慮した方法は取っていませんということだったのですが、こうすると、交流の輪というのが広がっていかないような気がするのですが、これは今後、このまま考えていかないということなののでしょうか。

「発表者」 周知の仕方については、検討の余地がたくさんあるところで、若い方にはSNSですとかを通じての発信、それから、御高齢の方には自治会の回覧などを通じた発信など、それから、外国籍の方には、やはり分かるような言語を使って発信していくことは重要と思っております。そちらについては、今後、検討して、今年度以降、課題として捉えております。

「議長」 よろしいですかね。ありがとうございます。

では、〇〇さん、どうぞ。

「委員」 とても楽しそうな活動だと思うのですが、残念ながら、コロナで子ども食堂ができないということで、事業スケジュールのほうには、毎月、子ども食堂、収穫と食堂と書いてありますけれども、これは農作業、今年は中心になるということですか。収穫するだけということですか。

「発表者」 今年度の活動については、委員さん、おっしゃられたように、コロナの感染症拡大の関係で、市の調理施設をお借りすることができない状況なのですが、今年度、障害者施設ぽけっとさんの畑をお借りしている関係で、障害者施設ぽけっとさんの調理室をお借りすることができそうな状況になってきまして、そちらを使用して実施できればというふうに考えております。

感染症の予防には十分注意して、子ども食堂と子ども農園と、今年度も引き続き、人数などの制限をさせていただくことにはなるかなとは思っておりますが、予防に留意して実施していければと思っております。

「委員」 ありがとうございます。

「議長」 ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。

「委員」 よろしいですか。

「議長」 では、〇〇さん、どうぞ。

「委員」 〇〇と申します。

平成30年に始まって、すごく活動がいろいろな人たちとも関わりながら広がっている

なというふうに思いました。少し先の話になってしまうかもしれませんが、先ほど、お話で、健康課さんが来て高齢者とも体操をしているとか、それから子供、それから外国人という、多世代、それから、いろいろな人たちとの関わりのハブになっているというか、そういう活動だと思えるのですけれども、将来的に、例えば地域包括支援センターが進めている、まちづくりですとか、あるいは社協さんが進めている地域福祉のまちづくりとか、あるいは、市が進めている小学校区のまちづくりとか、そういうところとの関わりというのも、何か将来的には考えたりとかされているのでしょうか。

「発表者」 小学校区ごとのまちづくり協議会が、現在、市内では、第三小学校区さんですとか、大山口小学校区さんのほうで進められているところかと思うのですけれども、将来的には、白井第一小学校区内でそういった形で実施していければと考えております。自治会さんや、コミュニティセンターですとか、様々な団体さん、障害者の福祉施設、高齢者の福祉施設、ボランティアの団体さんなどと一緒に、そういった取組を将来的には進めたいと思っていますところなんです。

「議長」 ありがとうございます。

「委員」 ありがとうございます。

「議長」 ○○さん、どうぞ。

「委員」 ○○さんにお聞きしたいのですけれども、この活動を行うに当たってのやりがいですとか、逆に苦勞している点とかありましたら、教えていただけるとありがたいです。

「発表者」 やりがいは、やはりなかなか接点のない子供たち。もう私たちは、子育てはやや一段落した状態なのですけれども、また小さな子供たちと関わって、私たちが子育てをしてきて成功したこと、またはやりきれなかったこと、それを子供たちに少しでも広げていけたらいいなと思います。あとは、何でした。

「委員」 苦勞した点。

「発表者」 苦勞した点。やはり人を集めること。1度来てしまえば、1度参加すれば楽しいということが分かっていたかと思うのですけれども、なかなか参加できない子とか。

「議長」 よろしいですかね。どうもありがとうございました。

そうしましたら、お時間になりましたので、本当に暑い中、御参加いただきまして、ありがとうございました。

これで、しろいワクワクひろばさんのプレゼンは終わりです。ありがとうございました。

「事務局」 それでは、3番目の団体さんは、チームちばらぎさんになります。

事業名は、体力メンテナンス、産後ケア事業となっております。

事業概要は、体力メンテナンスについては、老若男女に対し、日常生活において実践できる理想的な姿勢と自律神経を整える呼吸の指導。体力メンテナンス方法をお伝えする

健康促進事業。②番、産後ケア事業については、主に産前産後の母親に対するココロとカラダをケアする産後ケア事業となっております。

本日の出席は、〇〇さんと〇〇さんになります。

「発表者」 よろしくお願ひします。チームちばらぎの代表の〇〇と。

「発表者」 〇〇と申します。本日は、よろしくお願ひいたします。

「発表者」 よろしくお願ひします。

では、私たちが行っていきたい活動について、お話ししていきます。

まず1ページ目なのですがすけれども、私たちは、体力メンテナンスと産後ケア事業を白井市から発信していきたくて考えています。全ての方が笑顔あふれる人生を歩いていくために、やりたいことがやれる体力をつけるというのは、必要不可欠です。そして、体力がついてくることで、気力のほうもアップすることができます。といったお話をお伝えしていきたくて思います。

私たちが使っているツールとして、バランスボールというものがあります。これは、関節に負担が少なく、リハビリにも使われているツールになります。今、バランスボールと聞いたら、大体の方はバランスをとるのかなというようなイメージがあると思いますが、私たちが行っていくのは有酸素運動になります。しっかりと足を地面につけて、体を上に向かって弾ませていく有酸素運動になります。酸素を体の中に取り入れることで、その酸素と体の中の細胞、ミトコンドリアが脂肪や糖と化学反応を起こして、エネルギー物質を作り出していってくれます。それを続けることで、体力というのが出来上がっていくのですね。ただ、この仕組みを知らないのが現状です。

皆さんは、産後、特に産後のママたちは体力ががたっと落ちていますが、どうして体力がないのだろうか、病気になるのだろうか、あとは、私は産後鬱なのだろうかというのが、もやもやもやもや。あと、いらいらしたりすることが結構あります。でも、これは体力不足が原因なのだよということを、まず伝えていきたくて思っています。

そして、産後のママだけに限らず、全世代の方にも、朝起きて目が覚めたときに、何だか元気が出ないとか、御飯を食べてもやる気が出ない、エネルギーが湧き出ないというようなことがあると思うのです。それもやはり体力不足が原因なので、私たちは全世代の人にも伝えていきたくてというふうに思っています。

次のページになるのですがすけれども、三つの柱。

まず、体力メンテナンス事業として、老若男女を対象に体験型のイベントを行っていきたくて思っています。これは、白井市で行っているイベントに参加したり、あとは、私たち自身で、公園などでイベントを開催したりすることを考えています。

ただ、これがコロナで中止になってきたりしているのです、今後、また計画を練り直す必要があるのかなと思っています。オンラインで活動することが考えられるので、3番に飛

びますが、オンラインレッスンの講座、これはコロナが始まってから考えたことですね。自宅にしながら受講可能な健康講座、継続的な運動習慣を身につけるサポートを行っていきたいと思います。

すみません。順番が前後してしまうのですけれども、体力メンテナンスは老若男女を対象にして、また、対象を変えて、産前産後のママを対象に産後ケアをお伝えしていきたいと思います。

産後のお母さんというのは、交通事故8か月ぐらいのダメージを体に負っています。その中で、赤ちゃんを産んだ途端に、24時間待ったなしの育児が始まります。そうすることで、頑張って育児をする中で気力がすり減って、産後鬱だったり、夫婦関係が悪くなって、産後クライシスといったような社会問題にも発展していきます。

なので、まずは体力メンテナンスをすること。そして、産後のお母さんに届けることで、産後ケアをすることがすごく重要だと考えます。

音楽をかけてやっていくのですけれども。

実際には、こんな感じでやっていきます。このぐらいの音楽のテンポに合わせて、有酸素運動、しっかりと呼吸を取り入れてやっていきます。なので、産後のお母さんでもやれますし、老若男女、70代、80代、90代のおじいちゃん、おばあちゃん、小さな子供でもできます。赤ちゃんは、抱っこして弾むことで、お腹の中にいるときと同じ振動なので、寝かしつけにも効果的です。有酸素運動しながら、こういった肩凝りケアもすることができます。

3ページ目なのですが、白井市は出生率がちょっとピークに比べて落ちてきていますね。こういった産後ケア事業を取り入れることで、今後、白井市にファミリー層の誘致ができるのではないかなということ。

【鈴の音】（プレゼン終了の合図）

「発表者」 私たち、共同事業。

「議長」 すみません。時間になっちゃったので、これで、また残りの部分、何かあれば質疑で聞きますので。ありがとうございました。

「発表者」 ありがとうございます。

「議長」 では、音楽を。

そうしましたら、残りの時間、委員のほうから質問させていただきますので、一問一答形式で簡潔にお答えいただければと思います。

では、質問ある方、挙手をお願いします。では、〇〇さん、どうぞ。

「委員」 〇〇と申します。よろしくをお願いします。

「発表者」 よろしくをお願いします。

「委員」 こんな感じですよ。

「議長」 はい。

「委員」 コロナで今後、今年度、白井市で何をしていくかというのを練り直さなければいけないというお話なのですが、一応、出していた中では、そのイベント以外でやるのは、ワンクール5,000円ぐらいの産後ケアぐらいしか載っていないのですけれども。

「発表者」 そうですね。私たちが一番やりたいのが。

「議長」 終わりでいいですか。言い切ってからで。

「発表者」 はい。

「委員」 それ以外に考えるということですか。今から考える。もう出来上がっている。

「議長」 はい、どうぞ。

「発表者」 ありがとうございます。

私たちが一番やりたいのが、この産後ケアなのですけれども、それを一番やりたいので、産後ケアをオンラインでやっていきます。その集客を白井市の方の住民に向けて発信、SNSなどで発信して集客していこうと考えています。

そして、全体的な老若男女に対してのオンラインレッスンも考えていて、今、もう大体大枠はできているので、あとはホームページにアップするというような段階まで来ています。秋口の100人バウンスという計画があったのですけれども、ここ1週間でコロナが急拡大しているため、やはりこちらのほうは断念せざるを得ないかなというような考えがあります。というような状況ですね。

「議長」 よろしいですかね。ありがとうございます。

では、次の方。では、〇〇さん、どうぞ。

「委員」 産後ケア、とても大事な、高齢出産、大きなテーマだと思うのですけれども、簡単でいいのですけれども、何でバランスボールなんですかねという。簡単でいいのですけれども、お願いいたします。

「発表者」 ありがとうございます。

バランスボールを使うことによって、関節に負担が少なく、先ほど伝えた有酸素運動をすることができます。酸素を体に取り入れることで体力というのは作られるので、まず産後のお母さんというのは、体力が落ちています。なので、体力をつけるのがまず第一なのです。

その次に、骨格を整えて、その周りに骨格をキープするための筋肉をつけますね。そして、体力がついてくると気力がついてくるので、まず、一番先にやりたいのが、体力をつける有酸素運動なのです。

産後のお母さんに、マラソンをしようよとか、ウォーキングしようよというのも、小さな子供連れでもできないですよ。バランスボールだったら、寝かしつけにも使いながら家の中で短時間ですることができます。

「委員」 代表の方とバランスボールの出会い。この体力、社団法人のその団体との出会いはあったのですか。

〔発表者〕 いえ。私は、実際に団体の代表なのですけれども、私がこの団体を組みました。私自身は個人で、別の市のほうで、ほかの先生のレッスンを受けて、子供が3人いてもできる、この有酸素運動のバランスボールに出会って、本当に2か月、3か月でどんどん、どんどん気力がアップしていくのですね。それまでは、本当に産後鬱一歩手前で、涙がぱっと出てくるような状態だったのですけれども、自身で体験して、このすばらしいツールは誰も知らないなので、ぜひ伝えたいという熱い思いがあります。

〔委員〕 ありがとうございます。

〔議長〕 ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。

〔委員〕 よろしいですか。

〔議長〕 では、〇〇さん、どうぞ。

〔委員〕 〇〇と申します。

チームちばらぎさんの活動が、専門的なスキルを地域に生かしていくというところがすごく重要だと思うのですけれども、今日はその専門的。産後ケアがいかに大切かとか、そういうことは何となく分かったのですけれども、地域にどう生かすかとか、地域にどう貢献するかというところがお伺いしたいと思います。

特に、産後ケアの参加のところが、ワンクール5,000円ということで、これが公益性があるとすると、これは通常の価格と比べると、すごく安く提供している、あるいはボランティア価格で提供しているという意味なのでしょうか。

〔発表者〕 そうですね、はい。実際は、産後ケアクラスは、2万円台だったりとか3万円台だったのですけれども、それは開催する方が決めることなのですけれども、5,000円台で、しかも初めての方が受けやすいように回数も3回にしてあります。本当は6回コースで2万円台だったり3万円台だったりします。なので、普通に比べると、すごくお安く、入り口として提供できているかなと思います。

あと、白井市から発信していきたいという思いは、これから白井市の方に向けて、イベントをやる予定だったのですけれども、場所として白井市からというのを考えていたのですが、コロナでそういうイベントが開催できないので、SNSで白井市民の方に呼びかけるというのをやります。そこら辺が私たちの課題でもあるので、行政と組んで、届かない層に届けたい。本当に母子手帳に挟んでもらいたいぐらいの勢いなのです。赤ちゃんを産んだら産後ケア、を普通の世の中にしたいと思っているので、それをまずここからやっていきたいと強く思っています。

〔委員〕 ありがとうございます。

〔議長〕 ありがとうございました。

ほかはいかがでしょう。〇〇さん、どうぞ。

〔委員〕 〇〇と申します。

お尋ねしたいのは1点なのですけれども、予算計画書を見ますと、今年7万円のとりあえず御要望があるみたいなのですけれども、仮に、この7万円が今年、不採択となった場合でも、活動は行うものなのでしょうか。

「発表者」　そうですね。私たちは活動は行います。このお金が目的というよりは、私たち、今後、市と共同事業をしていきたいという思いがすごく強くあります。届かない層に届けるために、市と一緒にやっていきたいという思いがすごくあるので、どちらかというと、助成金が欲しいというよりは、今回、これをきっかけにいろいろな白井市民の方に知っていただきたいし、市と一緒に動いていきたいという思いがすごく強いです。

「委員」　ありがとうございます。

【鈴の音】（質疑終了の合図）

「議長」　ありがとうございました。ちょうど時間もぴったりということで。

では、これにて、チームちばらぎさんのプレゼンは終わりになります。どうも暑い中、ありがとうございました。お疲れさまでした。

「発表者」　ありがとうございます。

「事務局」　それでは、4番目、最後の団体しろいPEP UP!の〇〇さんになります。

事業については、PEP TOWNしろい 希望にあふれ夢叶える街づくりとなっております。

事業概要は、PEP TALK（元気・勇気・活力が出る）コミュニケーションコンテンツをベースに、「自己肯定感を高め、自分らしく生きていける」考え方を広め、元気で力強い地域づくり、リーダー養成を目指すとなっております。

「発表者」　それでは、皆様、始めさせていただきたいと思います。本日は、お時間頂きましてありがとうございます。

私たちは、このサークル、しろいPEP UP!とあって、PEPというのは、元気、勇気、活気、こんな意味を持っています。そして、この言葉の力ですね。言葉の力で心も体も元気にしよう、健康にしていこう、そして、こういうまちづくりをしていこう、こういうふうなコンセプトを基にサークルのほうを進めさせていただいております。

そして、何とコロナという、活動にコロナというものが入りました。そこで、私たちというのは、これをどうにか捉え方を変換して活動しようということで、オンラインというものを私たちは技術を身につけたのですね。おばあちゃまたちは、初め、あたしたちLINEなんてできないのよ。こんなことを言っていたのですけれども、できないのをできるようにしようということで、とても笑顔の活動、活動というか、笑顔にすることができました。そして、どんどん、どんどん健康にすることができました。そして、子供たちですね。最初は、ママなんか嫌いと言っていた子たちが、最終的にはママ大好き、産んでくれ

てありがとうございます。そんなことが、このコロナの学校がお休みの期間にあったのです。

私の写真ばかりなのですけれども、申し訳ないのですけれども。私、実は去年、教育委員会のほうでドリームサポーター講座というのをやらせていただきました。その中で、6回にわたってやらせていただいたのですけれども、その学びの中で、実は、こういったPEPすごろくというのが、教育委員会の先生方が作ってくださったのですね。Zoomで活動している中、これを何とか子供たちに伝えることができないか、そういうふうに私たちは思いました。

ということで、今回、私たち、サークルPEP UP!では、このPEPすごろく。PEPすごろく、いろいろなことが書いてあります。今、応援したい人は誰。最近ありがとうと言えたことは。自分のいいところを三つ挙げてくださいなどなど、これを一つやっていると、自己肯定感が上がる、そういうふうに作られています。

皆さん勉強されている方々で、本当に分かっているかとは思うのですけれども、要は、ユアオーケーが出せない人、相手を承認できないということは、自分自身にアイムオーケーが出せていない。自己肯定感が低いのだよということもありますよね。ということで、アイムオーケーをまず出せて、そして、ユアオーケーができる。そういう子供たちをつくっていきたい、そういうお母さんたちをつくっていきたい。そういうふうに私たちは思っています。

そして、すごろくで気づく、自分の気持ちに気づいたら、今度は習慣化かな、習慣がすごく大事な、そういうふうに私たちは思いました。そして、こういった日めくりカレンダー。これの元気な言葉が出るような、元気が出るような日めくりカレンダー。これが白井市バージョンができれば、めちゃくちゃいいんじゃないかな。そして、それが学校に行くと、貼ってあるのです。それを見ると、元気になるのです。全部のクラスにはまだ配れないとは思うのですけれども、一つ一つこれを重ねていって、そして、いずれは全部のクラス、小学区、中学校、高校、そして、幼稚園、保育園。

なぜかという、上毛かるたって知っていますか、皆さん。群馬県の上毛かるた、郷土愛がすごくありますよね。幼稚園生でも全部言えちゃうんです。「あ」から全部言えちゃうんです。そんな子供たち。郷土愛があるような、僕たちはこのカレンダーで育ったんだよ、そんな子供たちができれば、すごくうれしいなと私たち、サークルPEP UP!は思いました、この度、このような助成金というシステムをお願いする運びになりました。

そして、子供たちが元気、ママたちが元気。そして、PEP、元気・勇気・活気の街、しろいを私たちの力で作っていききたいな、そういうふうに思っております。

本日は、御静聴どうもありがとうございました。ありがとうございます。

「議長」 お時間まだありますけれども、よろしいですかね。

「発表者」 大丈夫です。

「議長」 分かりました。ありがとうございます。

「発表者」 ありがとうございます。

「議長」 そうしましたら、残りの時間で質疑のほう入らせていただきますので、委員から質問を一問一答形式でやりますので、簡潔にお答えいただければと思います。大丈夫ですか。

「発表者」 はい。

「議長」 では、質問のある方は挙手をお願いします。

〇〇さん、どうぞ。

「委員」 〇〇と申します。よろしくをお願いします。

「発表者」 お願いします。

「委員」 今、初めて、PEPカレンダーを実物を見せていただいたのですが、白井バージョンを作りたいということなのですね。初めてカレンダーを作るのではなくて、もともとあるものの白井バージョンを作りたいということなののでしょうか。

「発表者」 いえ。これは実は、よく皆さん、本屋さんとかで見られると思うのですが、相田みつをさんでしたり、松岡修造さんでしたり、そういうやつのもので、これ全部、本屋さんで売っているものです。これは〇〇さんから借りてきました。こういったもので、子供たちにヒットするような、元気が出る、勇気が出る、活気が出る、そんなような言葉の日めくりカレンダーをこの白井、私たち、もちろん、しろいPEP UP!というのは、そういうのも研究というか、学んではいるのですが、そんなのをできれば、コロナなのでどうか分からないのですが、子供たちからも募集しながら、それでみんなで作れたらいいなというふうに今、思っています。白井バージョン、初めてです。初めて作ります。

「議長」 よろしいですかね。ありがとうございます。

ほかの方はいかがでしょうか。〇〇さん、どうぞ。

「委員」 〇〇と申します。

「発表者」 よろしくをお願いします。

「委員」 よろしくをお願いします。

今のお話で、白井バージョンというのは、何が白井バージョンになるのですかね。

「発表者」 カレンダー、通常の日めくりカレンダーで、要は白井市限定ということですよ。今までPEPカレンダーって特にはないのですよ。どれも全部、元気が出るようなカレンダーなのですが、それが先ほどちょっとお話をさせていただいたのですが、かるたもいろいろなかるたがあるじゃないですか。その中で、白井、その郷土のものがあるというのもあると思うのです。例えば、茨城だったら、茨城の子供たち、教育委員会が出しているかるた。群馬だったら、群馬が出しているかるたとかがあると思うのですが、その中で、かるたではないですが、白井を元気にさせるような言葉を集めたカレンダーを作ったらいいなというふうに思っています。

「議長」 追加であれば。

「委員」 具体的には、何かあるのですかね。白井に向けた元気の出る言葉というのがよく分からなかったのですよ。

「発表者」 白井の、例えば、産物は梨ですよ。その梨にまつわるような元気が出るような言葉とか、あと、自然薯もそうですし、千葉ニュータウンもそうかもしれませんよね。そういうことが、元気が出るような言葉が入るような、活気が出るような、そんな言葉を入れていこうかなと思います。言葉の力なので、PEP TALKって、言葉の力で脳科学的、心理科学的なところから、言葉の力でPEP UPしていく、元気づけていく、やる気を出させる。そういうコンテンツなのですね。

大丈夫ですか。すみません。

「議長」 大丈夫です。

「発表者」 PEP TALKを語ると、15分ぐらいかかってしまうので。

「議長」 はい、分かりました。大丈夫です。

ほかの方、いかがでしょうか。

「委員」 よろしいですか。

「議長」 では、〇〇さん、どうぞ。

「委員」 〇〇と申します。

「発表者」 よろしくお願ひします。

「委員」 ちょっと不勉強で、今回、初めてPEP TALKを知りました。

「発表者」 ありがとうございます。

「委員」 知りたいのが、PEP TALKがすごく魅力的ということは今日分かったのですけれども、それがまちづくりのテーマ、事業名にある、まちづくりにどうつながるかというところがとても重要だと思うのです。

それは、例えば、カレンダーを作るプロセスにいろいろな人を巻き込んでいくとか、あるいは、できたものをどう使うか。学校とか、あるいは、社会の場でどのように普及させるかというところが欲しいのですけれども、そこは何か今、考えていることってありますでしょうか。

「発表者」 先ほど申しましたとおり、一つはカレンダーの例えばネタとかというのも、子供たちや、あとは、もしできれば先生方とかにアンケートを取りながら作れたらいいかなとは。あとは、お母様ですね。お母様がどういうふうなことで悩んでいて、それを元気づけさせるような。でも、配りたいのは学校なので、できれば学校さんの御意見とかもちよっと、もし聞けたらなのですけれども、私たちの力がどこまでというところでなのですが。もしそれができないのであれば、私たちの今までの活動の中の経験の中から、白井だったら絶対これでPEP UPしていこうみたいなことでやろうかなと思っています。

「委員」 分かりました。ありがとうございます。

「発表者」 はい、ありがとうございます。

「議長」 ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。〇〇さん、どうぞ。

「委員」 先ほど、カレンダーの話が何個かあって。どうもちょっとイメージが湧かないので、1日分だけでもいいので、元気が出る言葉をいただいていいですか。

「発表者」 1日分だけでいいから。

「委員」 はい。

「発表者」 それでは、簡単な言葉で言うと、「今日もスーパーハッピー、最高」みたいな感じですね。それが書いてある。ちょっと分からないかもしれないのですけれども。

「委員」 お聞かせいただきたいのは、白井バージョンで作るとしたら、その1日分だけでもいいから、教えていただきたい。

「発表者」 白井バージョンですか。

「委員」 はい。

「発表者」 例えば、白井ですと、ごめんなさい。すぐには思い浮かばないのですけれども。

「委員」 この後、考えて。

「発表者」 そうですね、はい。よろしくお願いします。

「議長」 ありがとうございます。

あと1分ぐらいありますので。

では、〇〇さん、どうぞ。

「委員」 日めくりカレンダーにこだわってらっしゃるのは、カレンダーって消耗品という感じがするのですけれども。本とノートとすると、ノートの。本的なもの、かるたは本的なものだと思うのですよね。何でそっちに行かなかったのかなというのがありましたら。

「発表者」 ありがとうございます。とてもいい。

カレンダーは、消耗品となりますよね。ただ、日めくりカレンダーですと。

「委員」 毎年同じ物を使う。

「発表者」 毎年使えるというメリットがありますよね。

「委員」 そうなのですか。

「発表者」 というところです。そこに日めくりカレンダーというところを私たちは持ってきました。

【鈴の音】（質疑終了の合図）

「委員」 ありがとうございます。

「議長」 ありがとうございました。時間もぴったりのことので。

では、これにて、PEP UP！しろいさんのプレゼンは終わらせていただきます。ど

うも暑い中、お疲れさまでした。ありがとうございました。

「発表者」 ありがとうございました。

(3) 補助金審査 [非公開]

(理由) 白井市情報公開条例第9条第1項第5号に該当するため。